



～ 未来を切り開くスクール ～
みらくる PROJECT



公益社団法人 小田原青年会議所 -豊かな心養成委員会-

はじめに

あなたにとって、一番大切なものは何ですか？

質問の仕方を少し変えてみます、命より大切なものはありますか？
最初の質問から、「いのちです」という返答が来る事は、ごく僅かです。
命や生きている事は当たり前となり、自分ではない何かを考えます。

そして、感謝。

感謝とは、「ありがたく感じて謝意を表すこと」。

「ありがたい」を漢字にすると「有難い」、有ることが難しいと書きます。

命をいただいたことは、まさに奇跡であり、さらに現代の世界の中で日本という国に生きていることも奇跡であります。私たちは、1億以上の精子の中のたった1つの精子が卵子と結びつき、1400兆分の1と言われる確立で命をいただきました。その命の鼓動は、自分でコントロールする事はできず、眠りにつき、朝目覚めることができるかも分からないのです。

いま生きていることは、当たり前ではなく、とても有難いことです。

広い世界を見渡せば、腹いっぱいを経験した事のない貧しい人が大勢いる中で、仕事があり、好きな時に好きなものを食べ、帰る家があることに、毎日心から「ありがとう」と思っている方は少ないと思います。

何気ない日常の中に有難いという感謝の心を持つことは、数えきれないほどあるはずですが、この感謝の心は満たされた生活をしていると、なかなか気付かないものです。

そして、衣・食・住が満たされている今の日本人が幸せかというと、世界先進国のなかで若年層の自殺者は世界一多く、お金や物質的な満足だけでは人は幸せに暮らす事は出来ない事が見えております。

子どもたちの心が満たされるためには、日常の些細なことに有難いという感謝の心を持つことができるようになることが大切です。

有難いという感謝の心を持つことで、子どもたちが幸せな人生を送り、命を全うすることが何より大切なことだと思います。



豊かな心養成委員会

| | |
|------|-------|
| 委員長 | 天貝 治雄 |
| 副委員長 | 松下 隼一 |
| 副委員長 | 加藤 長治 |
| 幹事 | 平本 祥啓 |
| 幹事 | 武井 曜司 |

【委員会目標】 地域で育む豊かな心、今を生きる地域の創造。

人と人、人と地域の繋がりが希薄になる中、我が国における若年層の自殺率は近年高水準で推移しており、物質的な幸福感ばかりを追い求め失敗が許されない風潮に子どもたちはさらされています。我々青年会議所は、地域の宝である子どもたちに対し、いのちが持つ可能性や日本人の精神性を活かした学びを柱とした、自らの可能性を信じ生きる素晴らしさを体得する共育体制と多文化共生の土台を地域の方と協働で展開する必要があります。

まずは、家庭教育を補う地域資源を活かした共育体制を構築するために、行政や地域の教育団体と意見交換したうえで日本人の精神性を誇らしく思う感受性豊かな心を育む共育プログラムを提案し、子どもたちが自らの未来を切り開く行動力を身につけます。そして我がまちの豊かな地域資源を活用して人財を育成するために、地域の恵みがもたらす生業を活用した生命を感じる機会を提供し、人は人だけでは磨かれず様々な生命や自然の恩恵のうえで成り立っている事に感謝する心を育みます。さらに、加速する社会変化の中で子どもたちが強く生き抜く心を育むために、我がまちに多く存在する寺社仏閣から人の弱さを知り、いただいた命に感謝し強く生き抜く智慧を養います。また、子どもたちが失敗を恐れず何事にも諦めずチャレンジする精神、夢や希望を描き叶える自らの可能性に気付くために、恵まれた五体や心身が当たり前と思わない機会を通じ、感謝と死生観をもって今を生きる強い精神を養います。そして、国際性豊かな子どもたちを育成するために、国際の機会を通じた学びの場を提供し、多様性を受け入れ尊重できる地域風土を醸成します。

地域の宝である子どもたちが自らの存在価値を見つけ、限りある生命の中で生き抜く事に気付き、あらゆる生命の尊さを知る事は、愛する自分、愛する家族、愛する地域、愛する地球への和と広がります。未来へ受け継がれる子どもたちを共育する地域が実現します。





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～未来へつなぐ いのち ところ～

子どもたちに対して、どの様な人生を歩んで欲しいですか。

夢はお金でもなく、物質的満足でもありません。

子どもたち一人ひとりが、いただいた命という限られた時間の中で個性を発揮し、何事にも諦めずにチャレンジし、大きな夢を叶えられる自分を信じて、自らの人生を切り開いていく。

誰もがお互いを尊重し支え合い、認め合える共生社会。

このような社会を目指すことは、私たちにとって積極的に取り組むべき重要な課題であります。

社会という大海原のなかで、また、目まぐるしく変わる時代のなかで子どもたちが健やかに育つには、学校・家庭・地域の大人の責任は大きく、いま三位一体となった共育が必要とされています。

地域の宝である子どもたちを、立場という垣根を越えて共に育てさせていただく。その様な機会もまた「ありがとう」と素直に私たち大人も思い行動ができたとき、より良い地域と子どもたちを未来へ受け継ぐことが出来るのではないのでしょうか。





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～魔法のことは「ありがとう」～

「ありがとう」

そう心から思うことが、私たちから薄れて来てしまったのではないのでしょうか。便利になることはとても良いことかもしれませんが、そこには必ず、感謝する思いが同時にあるべきものだと思います。さらに、いつしかそれは当たり前となってしまう、「感謝」することが少しずつ私たちからは失われております。

いま、生きている奇跡。

今朝、温かいご飯が食べられた奇跡。

「行って来ます！」と家族に言える奇跡。

「ただいま！」と帰る家がある奇跡。

当たり前と思っていること一つひとつが実は奇跡であること。

また、自分にとって都合の悪いことも、自分がどの様に受け止める事が出来るかで、起きた出来事は大きく変わります。

嫌な事でも有難いと思える感謝の心は、自分を大きく成長させる魔法の言葉であり、起こる全ての出来事が夢を叶えるためにあるのだと気付く事が出来るのです。

何事にも感謝し、大人と子どもが心からの「ありがとう」と言える社会が、未来を切り開く大きな原動力になると私たちは確信しています。





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～「ありがとう」を体験する～

「みらくる」では、4月のご入楽から11月の卒楽までの8カ月間のなかで、子どもたちが「ありがとう」に気付く機会を、体得していく場を提供します。教えるのではなく、子どもたちが体験を通じて、気付き、振り返り、学ぶことで個性と自らに秘めた可能性を引き出し、感謝と豊かな心を地域資源を活用しながら育んでまいります。

～体験を通じ育むこころ～

- ①「当たり前と思わない、日常に感謝する心。」
- ②「様々な生命や自然の恩恵のうえで成り立つ、感謝の心。」
- ③「いただいた命に感謝し、強く生き抜く心。」
- ④「失敗を恐れず何事にも諦めずチャレンジする強い心。」
- ⑤「夢や希望を描き、叶えられる自らの可能性を信じる心。」
- ⑥「当たり前と思わない、死生観と感謝の心。」
- ⑦「多様性を受け入れ尊重出来る、豊かな心。」



～ 生命の尊重 ～

| | |
|-----|---------------------------------|
| 低学年 | 生きることを喜び、生命を大切にすることを学ぶ。 |
| 中学年 | 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。 |
| 高学年 | 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する |

| | |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全体的な理解 | 生命の大切さはどれだけ強調しても過ぎることではない。すべての道徳性は、生命が大切にされてはじめて成り立つものだからである。ここでは、主として人間の生命の尊さについて考えを深めることになるが、生きているものすべての生命の尊さにも価値を置きながら考えなければならない。すなわち、社会的なかわりの中での生命や自然の中での生命、さらには生命の尊厳性など、多面的な視点から考えを深めていくことが重要である。 |
| 低学年 | 生命の尊さを知的に理解するというより、生活経験の中で生きていることを感じ取ることが中心になると考えられる。例えば、体にはぬくもりがあり、心臓の鼓動が規則的に続いている。夜はぐっすり眠り、朝は元気に起きられる。おいしく朝食が食べられる。学校に来てみんなと楽しく学習や生活ができる。このような極めて当たり前のことで見過ごしがちな「生きている証」を実感し、そのことに喜びを見いだすことによって生命の大切さを自覚できるようにすることが求められる。 |
| 中学年 | 現実性をもって死を理解できるといわれる。特にこの時期に、生命の尊さを感じ得るように指導する必要がある。例えば、誕生の話から生を受けたことのすばらしさを感じたり、病気やけがの様子から自分の生命の尊さを知ったりして、同様に生命あるものすべてを大切にしようとする心を育てることが出来る。 |
| 高学年 | 生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができる。また、様々な人々との支え合いの中で一人一人の生命がはぐくまれることがわかる。さらに、生命が祖先から自分そして子孫へと受け継がれていくことをより深く理解できるようになる。それらを通して、生命のかけがえのなさを自覚できるようにすることが重要である。人間の誕生の喜びや死の重さ、生きることの尊さ、共に生きることの素晴らしさなどを考えることから、自他の生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育てるとともに、生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。 |

文部科学省「小学校学習指導要領解説」



～ 尊敬・感謝 ～

| | |
|-----|-------------------------------------------|
| 低学年 | 日ごろ世話になっている人々に感謝する。 |
| 中学年 | 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。 |
| 高学年 | 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。 |

| | |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全体的な理解 | よい人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切であるが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。そして、それは日々の生活、さらには自分が存在することに対する感謝へと広がり、生命尊重や人間尊重の精神を支えることになる。さらに、人々や公共のために役に立とうとするとところまで指導を深めていくことが大切になる。 |
| 低学年 | 身近で日ごろ世話になっている人々の存在に気づき、それらの人々の善意に感謝する気持ちを具体的な言葉に表し、行動に表す指導が求められる。その際、その人々が自分に寄せてくれた善意について考え、そのときに自分が感じた感謝の念について改めて考えることができるようにすることが大切である。 |
| 中学年 | 感謝する対象を、日ごろ世話になっている人々から日々の生活を支えている様々な人々へと広げる指導が求められる。特に、自分たちの生活のために働く人々や、長く自分たちの生活を築き、支え、努力を重ねてきた高齢者に対する理解を深め、尊敬と感謝の念をもって接することができるようにすることが大切である。 |
| 高学年 | 感謝の対象が人のみならず、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活そのもの、更にはそのような中で自分が生きていることに対する感謝にまで広げることが必要である。そして、それにこたえて、自分は何をすべきかを自覚できるようにし、進んで実践できるところまで指導することが求められる。さらに、このようなことを通して、自分の心の中の感謝の気持ちが相手の心に届き、潤いのある人間関係が築かれるものであることを自覚できるようにすることが大切である。 |

文部科学省「小学校学習指導要領解説」





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～年間行事～

「みらくる」で子どもたちが体験する、年間スケジュール。

| 日時 | 行事 | 場所 |
|----------------------|-----------------|-------------------------|
| 4月 1日 (土) | 入楽説明会 | UMECO |
| 4月23日 (日) | 入楽式 | 市民会館小ホール |
| 6月 4日 (日) | どろんこ田植え体験! | 小田原市桑原 |
| 6月24日 (土) 25日 (日) | お寺で合宿 (1泊2日) | 宗教法人 東際寺 小田原市小竹 1686 |
| 7月29日 (土) | 灯想夜 2017 | 城址公園銅門広場 |
| 7月30日 (日) | 夏の観察会 | 小田原市桑原 |
| 9月10日 (日) | 国際交流体験 | 箱根町湯本 |
| 9月16日 (土) | 共に暮らす | 老人ホーム いこい |
| 10月15日 (日) | 稲刈り体験 (予備日 22日) | 小田原市桑原 |
| 11月 5日 (日) | お米の収穫祭 | 小田原市桑原 |
| 11月26日 (日) | 卒楽式 | 小田原市内 |
| 11月特別授業 | 防災理解楽校 (DIG) | 小田原市内 |





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～4月授業～

■ 4月23日（日） 入楽式・ありがとうってなんだろう



「みらくる」入楽式

学区・学年を超えて、様々な体験が始まる入楽式。

学校とは違い、異学年混合の縦割りクラス構成で、高学年の子どもたちが低学年の子を引率する寺子屋形式で行います。当日は新しい友達との友情を深めるオリエンテーション。自分のいのちのルーツを知り、いのちが持つ可能性と「ありがとう」に気付く機会からスタートいたします。普段の生活は、多くの人と人の繋がりの中で成り立っており、見えない思いや支えに気付き、当たり前と思わない心に出会えることは、日々の過ごし

方と未来を切り開く第一歩を踏み出します。

①「当たり前と思わない、日常に感謝する心。」





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～6月授業～

■ 6月4日（日） どろんこ田植え体験



「みらくる」田植え体験

毎日いただく主食である米。田植えから草むしり、収穫までを一貫して行います。

日常生活のなかで、最も大切な食事に「ありがとう」と思える感謝の心を養います。

お米が出来ることが、どれだけ大変か。また人だけではなく、自然の恵みがあり初めて人は生きていけることに気付く機会を提供します。現代ではなかなか

田んぼで遊ぶ機会も許されず、子どもたちに自然の中で存分に遊んでいただく場と田植えを行います。

- ①「当たり前と思わない、日常に感謝する心。」
- ②「様々な生命や自然の恩恵のうえで成り立つ、感謝の心。」
- ③「いただいた命に感謝し、強く生き抜く心。」
- ④「失敗を恐れず何事にも諦めずチャレンジする強い心。」
- ⑤「夢や希望を描き、叶えられる自らの可能性を信じる心。」





地域で育む 豊かなころ
みらくる PROJECT

～6月授業～

■ 6月24～25日（土・日） お寺で合宿



「みらくる」合宿

城下町であるわがまちに多く存在する寺社仏閣にて、一泊二日の合宿を行います。1400兆分の1と言われる確立で生を受け、命という限られた時間をいただいた奇跡に感謝するとともに、その命を繋いで来られたご先祖に対しての感謝の心を養います。また、生きることは他のいのちをいただき成り立つ事など、食に関する感謝を感じる

機会を提供します。静かに自分と向き合う座禅の時間や、地域の方々と日常とは異なる生活を通じて、未来を切り開く行動力を養います。

- ①「当たり前と思わない、日常に感謝する心。」
- ②「様々な生命や自然の恩恵のうえで成り立つ、感謝の心。」
- ③「いただいた命に感謝し、強く生き抜く心。」
- ⑤「夢や希望を描き、叶えられる自らの可能性を信じる心。」





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～ 7月授業～

■ 7月29日（土） 灯想夜2017



「みらくる」灯想夜2017

小学3年生を対象に行う「灯想夜」も本年で6年目を迎えます。自分以外の人や物事に対する感謝の思いを感じる事や伝えていくことは育ちゆく過程でとても大切なことで、キャンドルホルダーに日頃なかなか言い出せない感謝の気持ちを描き伝えております。「みらくる」では既に経験した子どもたち、これから経験をする子どもたちがおりま

す。経験した4～6年生を中心に、子どもたちが自ら考え思いを形にする製作過程を設け、灯想夜とみらくるの経験を経た今想う感謝や夢を表現する場を創出します。

- ①「当たり前と思わない、日常に感謝する心。」
- ②「様々な生命や自然の恩恵のうえで成り立つ、感謝の心。」
- ③「いただいた命に感謝し、強く生き抜く心。」
- ④「失敗を恐れず何事にも諦めずチャレンジする強い心。」
- ⑤「夢や希望を描き、叶えられる自らの可能性を信じる心。」





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～ 7月授業～

■ 7月30日（日） 夏の観察会



「みらくる」夏の観察会

6月に田植えを行ったたんぼの周辺には、色々な動植物たちが生息しております。たんぼの周辺に触れ合い、「そこに在る命」を感じてもらう夏の観察会。水遊び・魚とり、獲った魚を水槽に入れ、小田原メダカ・タニシ・ドジョウ…小さな生命がどの様な環境で暮らしているのか観察し、お話を聞き、生き物のスケッチをします。

人・植物・動物・水・空気・土などが共存し、はじめて私たちの生活は成り立っており、様々な生命と自然の恵に感謝する心を養います。

- ①「当たり前と思わない、日常に感謝する心。」
- ②「様々な生命や自然の恩恵のうえで成り立つ、感謝の心。」
- ③「いただいた命に感謝し、強く生き抜く心。」
- ④「失敗を恐れず何事にも諦めずチャレンジする強い心。」
- ⑤「夢や希望を描き、叶えられる自らの可能性を信じる心。」





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～9月授業～

■9月10日（日） 国際交流体験



「みらくる」国際交流体験
56年ぶりに夏期東京オリンピック大会が開催されます。
今後も海外からの観光客が多く訪れるわがまちでは、外国の方とのコミュニケーションを子どもたちから身近に感じていただくことができる地域であるにも拘らず、どこかで他国の文化の違いや、国境、言葉の壁を越えた人と人が繋がりが合う、広い

視野と世界を身近に感じることができておりません。

日本有数の観光地箱根において、訪日外国人及び日本人観光客との交流の機会を作り出し、多様性を受け入れ尊重できる国際性豊かな子どもたちを育成する、地域一体となったおもてなしを子どもたちと一緒に創出します。

- ⑤「夢や希望を描き、叶えられる自らの可能性を信じる心。」
- ⑦「多様性を受け入れ尊重出来る、豊かな心。」





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～ 9月授業～

■ 9月16日（土） 共に暮らす



「みらくる」共に暮らす

お年寄りとの交流をしよう

核家族が進み、おじいちゃん、おばあちゃんと過ごす事が少なくなっている昨今。高齢者もまた子どもとふれあう機会は少なくなっています。介護施設への訪問を通じ、支えあう心、お互いを大切にする心、感謝の心を養います。そして、このような社会を目指すことは、私たちにとって積極的に取り組むべき重

要な課題であります。いただいた時間を精一杯生き抜き、未来を切り開いていく強い心を養います。さらに、高齢者の福祉に対する関心を深め、心優しい地域を築いていきます。

- ①「当たり前と思わない、日常に感謝する心。」
- ③「いただいた命に感謝し、強く生き抜く心。」
- ④「失敗を恐れず何事にも諦めずチャレンジする強い心。」
- ⑤「夢や希望を描き、叶えられる自らの可能性を信じる心。」
- ⑥「当たり前と思わない、死生観と感謝の心。」
- ⑦「多様性を受け入れ尊重出来る、豊かな心。」





地域で育む 豊かなころ
みらくる PROJECT

～10月授業～

■ 10月15日(日) 稲刈り(雨天の場合22日)



「みらくる」稲刈り体験

田植え・観察会・草むしり、米作りを通して、いつも何気なく食べていたお米は出来るまでにこんなにも多くの支えと恵があり成り立っていた事を学んできました。子どもたちが精魂込めて手入れし育ててきたお米の稲刈りをします。生きる事は様々な命をいただく事、6月合宿を経て来た子どもたちは、食事に対して、また、お米1粒1粒に

対して今までとは気持ちの変化が見られる事でしょう。たわわに実るお米から成果を感じ、自ら鎌で稲を刈り脱穀作業を行うことで達成感を体験します。

- ①「当たり前と思わない、日常に感謝する心。」
- ②「様々な生命や自然の恩恵のうえで成り立つ、感謝の心。」
- ③「いただいた命に感謝し、強く生き抜く心。」
- ⑤「夢や希望を描き、叶えられる自らの可能性を信じる心。」





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～ 11月授業～

■ 11月5日（日） お米の収穫祭



「みらくる」お米の収穫祭

10月にお米の収穫を終え、その収穫を祝う収穫祭を行います。精米したお米を大きな釜で炊き、子どもたちが育て上げたお米をここで初めて食しますが、田植えから振り返ることで、一杯のご飯は格別に美味しく感じられることと思います。また収穫した際の稲藁を活用し、お正月用のしめ縄やリース作成、餅つきを行い収穫を祝います。

約半年にわたる米作りを通し、やれば出来る、大変だったから得られる大きな成果や達成感を経験する事で、何事にも諦めずにチャレンジする心などを、大自然と地域コミュニティから多くの心を学びます。

- ①「当たり前と思わない、日常に感謝する心。」
- ②「様々な生命や自然の恩恵のうえで成り立つ、感謝の心。」
- ③「いただいた命に感謝し、強く生き抜く心。」
- ④「失敗を恐れず何事にも諦めずチャレンジする強い心。」
- ⑤「夢や希望を描き、叶えられる自らの可能性を信じる心。」





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～ 11月授業～

■ 11月26日（日） 卒楽式



「みらくる」卒楽式

4月の入楽から8カ月、10回の授業を体験した子どもたちの卒楽を祝います。「みらくる」での様々な体験の中で、大人が思う以上に子どもたちは自然と何かを感じ、学び、体得している事と思います。子どもたちはそれぞれに解決する能力を持っており、それは教えて出来ることではなく経験から引き出されていきます。いつまでも「感謝」を忘れずに、どんなことでも

有難いと思える美しく強い心は、必ずや未来を切り開く行動力へと繋がります。夢や希望を諦めずに、必ず叶う自らが秘めた可能性を信じて、いただいた奇跡の時間を最高の時間にさせていただきたいと心から願います。そして子どもたちの成長を一緒に支えていただいた地域ボランティアの方々が、「みらくる」終了後も変わらずに学校・家庭・地域が一体となった共育をそれぞれの地域で実践し、子どもたちを支える地域共育の和を構築していく支援を今後も続けて参ります。





地域で育む 豊かなこころ
みらくる PROJECT

～特別授業～

■ 11月 防災理解教室 DIG



「みらくる」図上防災訓練

小田原青年会議所が行う、防災理解教室 DIG（ディグ）。参加者がテーブル上の地図を囲み防災対策を話し合い、日頃からの防災準備として参加者同士が「安心して住みやすい顔の見える地域」となるようにコミュニケーションを図り、筆記用具を用意して、机の上でできる訓練です。我々の住む地域が、自分たちのまちは自分たちで守れるような強い地域として今以上に

結束し、発災時は行政（公助）にすべて任せるのではなく、自助の意識を再確認するために行っております。親子で防災を考える機会を提供します。

- ①「当たり前と思わない、日常に感謝する心。」
- ③「いただいた命に感謝し、強く生き抜く心。」
- ④「失敗を恐れず何事にも諦めずチャレンジする強い心。」
- ⑤「夢や希望を描き、叶えられる自らの可能性を信じる心。」



年間プログラムから求める姿

8カ月という限られた時間であるものの、10回の授業を通して7つの豊かな心を感じる機会を体験し、それ以上の気付きや、心に、大人も子どもも共に会える事で、考え方が変わり、自分が変わり、日常が変わる。そして、その1人1人の変化が少しずつでも周りに影響を与え、家族が変わり、地域が変わり、世界が変わっていきます。

この事業を通じて求める姿・行動

【大人】行動指針

- ・子どもは大人の鏡ということを深く意識し、子どもたちの模範となる行動をとる。
- ・子どもと大人とが、共に社会をつくるパートナーという意識を持ち、寄り添う関係を築く。
- ・子どもの声を聴く力を身につけ、子どもの心の声を理解する。
- ・子どもの発想から生まれる「遊び」を保障する。

成長した姿

- ①共育者としての自覚を持ち、自分自身が成長し続ける姿勢をもつ。
- ②子育てが喜びであり楽しみだと感じられ、自らが光り輝き、生き生きとした幸せな人生を送る。

【子ども】行動指針

- ・挨拶は相手の目を見てはっきりできる。
- ・はっきりとした声で返事、「ありがとう」「ごめんなさい」が言える。
- ・人の話を相手の目を見て聞ける。
- ・身の回りの片付けが自ら率先してできる。

成長した姿

- ①相手の立場にたった行動ができ、人を思いやる心を持つ。
- ②課題に対して簡単に諦めず、感謝する心と挑戦する気持ちを持つ。
- ③言い訳をせず、他の人のせいにせず、責任ある行動がとれる。





公益社団法人 小田原青年会議所 -豊かな心養成委員会-